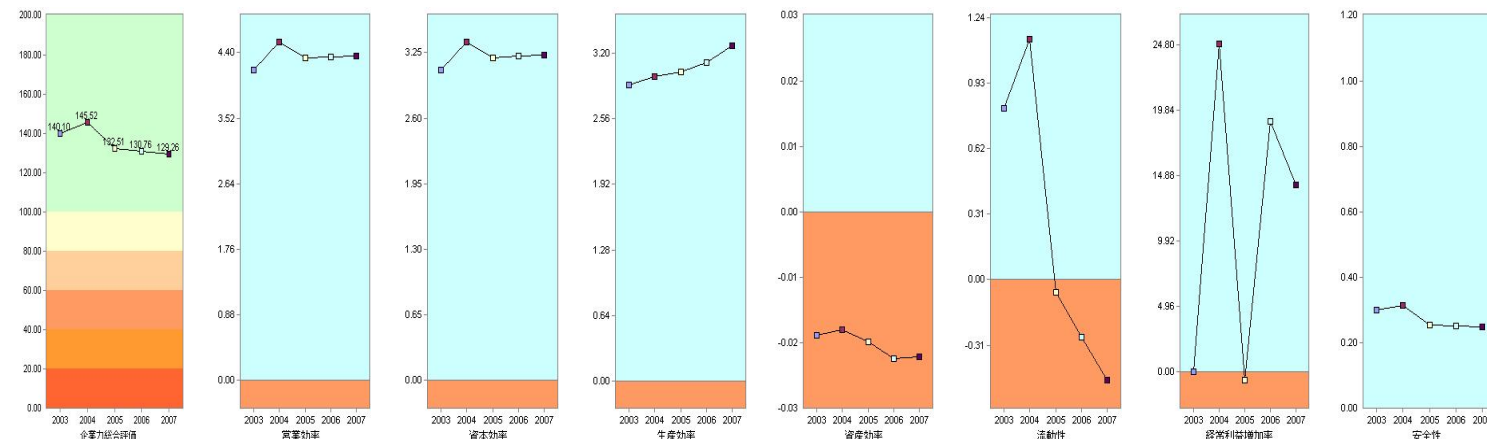


今回は、自動車メーカー利益世界 1 位、経営の「見える化」の元祖、トヨタ自動車株式会社を分析してみましよう。

【企業力総合評価】 【営業効率】 【資本効率】 【生産効率】 【資産効率】 【流動性】 【経常利益増加率】 【安全性】



トヨタ自動車株式会社	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2007 年 3 月期
【企業力総合評価】	140.10	145.52	132.51	130.76	129.26

トヨタ自動車株式会社は、カイゼン（改善）、カンバン方式など、トヨタ生産方式等の生産・経営のノウハウを確立しました。また、販売を重視し銀行融資に頼らず自己資本の充実に努め、実質無借金経営・優良企業の代表的企業とされていますが、実際には自動車産業という巨額の設備投資や自動車ローンなど付随する事業に必要な膨大な資金調達のため、有利子負債は約 12 兆円を上まわります。

日産自動車の総合評価と比較して見ると、日産自動車の健闘がよく判ると同時に、両企業とも有利子負債の負担が多額であるために、総合評価は青信号領域の中段を推移していることが判ります。

日産自動車	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2007 年 3 月期
【企業力総合評価】	136.15	134.83	133.57	131.99	129.29

結果として、トヨタ自動車株式会社も、自己資本比率はずば抜けた数値とは言えません。

トヨタ自動車株式会社	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2007 年 3 月期
自己資本比率	35.97	37.11	37.17	36.76	36.34

一方で、10 兆円に迫る多大な内部留保を抱えるため、トヨタ銀行とも称されています。

トヨタ自動車株式会社	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2007 年 3 月期
現金預金	620,870,000,000	1,798,249,000,000	1,547,362,000,000	1,619,736,000,000	1,927,088,000,000
現金預金比率	8.22	23.67	18.81	16.15	16.38

2002 年 3 月期の通期決算において日本企業初の連結経常利益 1 兆円を超え、さらに 2004 年 3 月期の通期決算では、連結純利益（米国会計基準）でも日本企業初の 1 兆円超えを達成しました。（○）

トヨタ自動車株式会社	2003 年 3 月期	2004 年 3 月期	2005 年 3 月期	2006 年 3 月期	2007 年 3 月期
売上高合計	16,054,290,000,000	17,294,760,000,000	18,551,526,000,000	21,036,909,000,000	23,948,091,000,000
売上総利益	3,898,150,000,000	3,424,246,000,000	3,681,400,000,000	4,091,965,000,000	4,719,698,000,000
売上高総利益率	24.28	19.80	19.84	19.45	19.71
営業利益	1,363,681,000,000	1,666,890,000,000	1,672,187,000,000	1,878,342,000,000	2,238,683,000,000
売上高営業利益率	8.49	9.64	9.01	8.93	9.35
経常利益	1,414,003,000,000	1,765,793,000,000	1,754,637,000,000	2,087,360,000,000	2,382,516,000,000
売上高経常利益率	8.81	10.21	9.46	9.92	9.95
当期利益	944,673,000,000	1,162,098,000,000	1,171,260,000,000	1,372,180,000,000	1,644,032,000,000
売上高当期利益率	5.88	6.72	6.31	6.52	6.86

1990 年代以後の不況期にはその経営姿勢が注目され、ついにはトヨタ自身も生産方式を他企業にパッケージ販売するに至りました。以上のように、広く絶賛される経営手法ではありますが、期間工や納入業者に対する搾取・圧迫の苛烈さから社会的に貢献しない企業であるという批判もあります。しかし、2006 年 1 月からトヨタ社内に「社会貢献推進部」を設置し、交通安全や中国での植林活動、人材育成、自動車のリサイクルなどの環境への貢献などの社会貢献活動を積極的に行ったりもしています。

### まとめ

トヨタの分析の説明をすると、多くの方が総合評価の低さに驚かれます。巨額の設備投資や、付随事業の資金調達の為に総合評価は低くなってしまふからです。トヨタは巷でトヨタ銀行、当期利益 1 兆円などの評価があることがこのようなギャップを生んでいるのでしょう。

**お問い合わせ先** SPLENDID21 に関するお問合せは下記までお願いいたします。

〒840-0015 佐賀県佐賀市木原 2-6-5 税理士法人 諸井会計

tel 0952-23-5106 fax 0952-22-2888 ☐ [info@moroi.co.jp](mailto:info@moroi.co.jp) URL <http://www.moroi.co.jp>